

その-7 アジサイ栽培のワンポイント

アジサイ栽培についてその-1 からその-6 までいろいろと書いてきました。決定的な管理ではないと思いますが、いわゆる手抜き管理の方法かもしれません。管理は「楽して管理する」ことも大切です。その結果として毎年綺麗な花が咲いてくれれば最高の喜びです。ヤマアジサイはランやバラなどと比べれば決して高価な植物とは言えませんが、昔から万葉集の歌にも詠まれ親しみやすい植物であったことはだけは確かなようです。「アジサイの魅力とは」にまともに答えるのは野暮かも知れませんが、何でもはある人には理由も理屈もないわけです。ただ、あえて理屈を述べるとヤマアジサイには「野趣」と「そこそこの華やかさ」があり、野にある草木のような雰囲気や、あやうくはかない感じが日本人の心を引き付け、それが古来より茶花として一輪、一鉢を活け、長い間親しまれてきた植物だったのかも知れません。ちょっと格好を付けるようですがひとりで静かに眺める植物はヤマアジサイがその極みと言えるかも知れません。

今回は特にヤマアジサイの管理の中で「これは知っておくと意外と便利」という方法を幾つか書いてみました。参考にしてみて下さい。

① 水やりについて

アジサイの花というと雨の印象があります。そのくらい水を好む植物といえます。日頃の管理についてこの水やりの作業は最も大切といつても良いでしょう。特に6月から9月までの期間は特に水やりが大変な時期で心配でうっかりと旅行にも出掛けられることになります。

この水分補給目的での水やり作業、いくつかの条件を満たしています。

1-1 鉢の中の空気を入れかえることで新鮮な酸素を与える。

鉢内の酸素が不足すると根は窒息状態となり枯れる原因になります。水を充分に与えるとアジサイの鉢の中の空気は入れかわり根の活動も活発になります。

1-2 腐葉土など有機物を含んだ用土では水を与えることでその分解を助ける。

有機物の分解には水の中の酸素が必要です。結果としてアジサイの根から肥料の吸収を助けることにつながります。

1-3 夏場の高温時は鉢の中の温度を下げることが出来る。

夏場は鉢の中の温度は上昇します。水やりによって鉢の中の根や葉に水をかけることで地上部の葉、茎全体に温度を下げる事ができます。アジサイの仲間では特にヤマアジサイは別名サワアジサイといわれるほど山の沢沿いの傾斜地に水しぶきをかぶりながら自生している印象があります。

夏場のアジサイの水やりは大切ですが、冬場も鉢の表面が乾いたら午前中にたっぷりと鉢底から水が流れ出るまで与えます。(午後に与えると夜間に鉢内が凍り付き根にダメージを与えます。) ちなみに、冬場のアジサイの鉢の置き場は乾燥した北風が直接当たらない場所を選びましょう。(乾いた冷たい風はせっかく出来た来春の花芽を傷めて咲かなくなる心配があります)

★水やりワンポイント★

花後に剪定を行い、不要な枝、葉は出来るだけ少なくすることで葉からの水分の蒸散は減ります。私は葉の数が簡単に数えられる程度まで下の方の葉、不要と判断した葉は容赦なくモギります。同時に、ひこばえも日頃から徹底的に取り除くことでアジサイの株元もすっきりとして上から

水をかけたときに少ない量で鉢の中までしっかりと行き届きます。反対に葉の数が多くアジサイが密生した状態では上からかけた水は葉にはじかれて鉢の中にはほとんど届きません。しばらくすると葉がぐつたりと下に垂れている瀕死の状態になります。

水やりの効率を上げたい方は是非実践してみて下さい。与え方はホースでもジョウロでも同様です。ホースが長い場合は水を出す前にじれを直して全部セットしてから蛇口をひねること!! (無駄にホースを動かすと大切な花芽や枝が無残な状態になります…)



左の写真は株の下部分の葉を取り除き、株元をすっきりとさせた状態です。トレイを横から眺めて品種名が分かる程度まで葉数を減らし、しひこばえ除去も容易です。こうすることで、水やりはぐっと楽になります。

水やりはアジサイ管理で一番大切です。やるべきは鉢底から水が流れ出までたっぷりとが基本です。

② 肥料について

「アジサイの肥料はどうしていますか」と質問を受けますが、アジサイの自生地を考えた場合に山奥の沢沿いや伊豆半島の海岸の岩場に肥料を蒔いている人は見たことがあります。それでも毎年のようにきれいに咲いているのを観ると、アジサイは肥料ではなく育つ環境が一番大切だと感じるのです。それでも、毎年の自生アジサイ展の期間中に行っているアジサイの育て方講習会では肥料についてはヤマアジサイを例に挙げて説明しています。

肥料は、猛暑の夏、冬場の休眠期を除いては与えられますが、液肥は出来るだけ薄く、固形物は少なくが基本です。薄い液肥を回数多くが最も効果的で安全です。逆に濃い液肥を一度にたっぷりと与えるのは根にダメージを与えることになりますので絶対に止めましょう。

ここで肥料のチツソ、リン、カリ三大要素について簡単にまとめてみました。

市販の液肥や緩効性肥料にはこの他にも微量元素の無機物等が適当に配合されています。この3大要素には次の役割があります。

- ・チツソ Nitrogen アジサイの葉や幹を育てるのに役立ちます。葉肥ともいわれます。
- ・リン Phosphorus アジサイの花や種を育てるのに役立ち実肥ともいわれます。
- ・カリ Kali アジサイの根の生育に役立ち、耐病性を高める働きもあります。

例えば、緩効性肥料のマグアンプKの表示にはチツソ6 リン40 カリ6 マグネシウム15となっています。花を咲かせる成分が多く含まれているのが分かります。また、固形の油粕にはチツソ6 リン6 カリ6と示され平均的成分であることが分かります

さて、アジサイの鉢栽培には次の肥料を準備すれば充分でしょう。



左から液肥のハイポネックス、固形肥料のグリーンキング、固形の緩効性肥料マグアンプK
マグアンプは大粒を使うことで長期間有効です。
この固形肥料は一鉢5~10粒程度とされています。



液肥は手頃で水替わりに掛けるだけで使いやすい肥料です。植物の種類によって水で薄めて使いますので薄め方を間違えないようにしましょう。
アジサイの場合は1,000倍位に薄めます。6リットルのジョウロではキャップの約半分程度です。



春先、花後は窒素、リン酸、カリ等比率の固形油粕を鉢の縁に中スプーン一杯程度。



木酢やもみ殻酢は活力剤、虫よけとしても有効です。葉水代わりに水で500倍～1000倍程度に薄めて月に2～3回程度定期的に与えています。



最近は活力剤としてHB-10の名称で販売されています。この他、メネデールも活力剤として安全に使われています。特に、鉢植えのアジサイの他に挿し芽の挿し穂を薄めた活力剤にしばらく浸けると挿し芽の成績が良くなります。また、挿し芽後に水代わりに薄めた活力剤を与えるようにしています。

★アジサイの肥料ワンポイント★

固形肥料は緩効性肥料のマグアンプ大粒を使い、2～3年に一回の鉢の植え替え時のみです。液体肥料は薄い液肥を回数多くが基本ですから、3月～9月まで開花期を除いて約1,000倍に薄めて月に2回程度です。冬の休眠期は油粕の寒肥を置きます。なお、挿し芽をした苗はその年は無肥料で活力剤のみが安全です。

③ 害虫、雑草の駆除、殺菌剤について

3-1 雑草



上の写真、アジサイを鉢で栽培するとよく見かける雑草です。左側はゼニゴケ、右側はオギザリス?の仲間でしょうか…いずれも採ろうとすると頭部分だけ取れて、何とも始末に困ります。また、鉢の表面全体に広がりせっかくの液肥も台無しです。これまで、いろいろと除去方法を検討してきましたが…まさか除草剤を使う訳にもいきませんし難敵でした。結局結論としては見つけ次第ピンセットの先でザクッと押し込み雑草の根ごと引き抜くのが一番の方法でした。コケは胞子で増殖するので最も質が悪いのです。根気よく引き抜きましょう。

★鉢の表面の雑草取りワンポイント★

見つけ次第、大型ピンセットで根ごと完全に取り除くこと。鉢の表面はいつもきれいに保つことが大切です。鉢の表面の雑草を薬剤で防ぐことは難しいです。

3-2 害虫



アジサイは植物の中では比較的病虫害に強い植物です。無農薬、無肥料でも元気に育ち寝毎年花を咲かせています。しかし、上の写真、道端で見かけたガクアジサイの葉が虫（アジサイハバチと思われますが）に食べられた状態です。こうなると花も台無しですね。

下の写真はアジサイワタカイガラムシが付いた幹です。ヤマアジサイはガクアジサイに比べ食害や病気はあまり見かけませんが、それでも年中日陰で葉が密生した風通しの悪い環境では害虫の危険性があります。念のため、次の薬剤は用意しましょう。



葉を食べる虫を見つけた場合は捕殺するのが手早いのですが面倒な場合は、安全な農薬を使用します。経験から有機リン系の「マラソン」か「スミチオン」を推奨します。バッタ、ハダニなどにも効きます。また、うどん粉病、白点病、黒点病他諸々の病気はペントレートが安全です。このペントレートは山野草、特にランや雪割草の殺菌剤としてはよく使われています。使用にする場合は噴霧器を使い無風の状態でマスクを付けることは守りましょう。



左から殺虫剤のマラソン、展着剤、冬期に使う無機系の殺菌剤 石灰硫黄合剤



殺菌剤カーバメート系のペントレート（ベルミノ）は万能に安全に使えます。

★アジサイの害虫、病気対策ワンポイント★

アジサイは他の植物よりも害虫や病気の心配は少ないと思いますが、それでも鉢をたくさん密集させて管理したり、剪定やひこばえの処理を怠り、風通しの悪い条件にすると虫がついたり病気の心配があります。

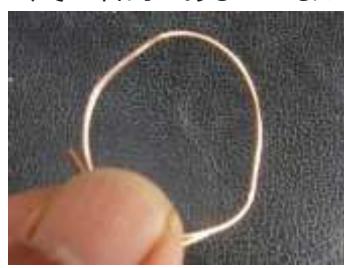
殺虫剤のマラソン乳剤かスミチオン乳剤、殺菌剤としてペントレートを水で1,000倍に薄めて噴霧器を使って株全体と鉢の表面に噴霧することで虫と病気は抑えられます。私はこの2種類の薬剤（マラソンとペントレート）を混合して4月頃に散布しています。

また、これとは別に冬の間に石灰硫黄合剤を一回散布しておけば更に完璧でしょう。

④ ナメクジ対策

植物を栽培して気になります。鉢の底や葉の裏にいるナメクジです。ナメクジは人に刺したり、噛んだりすることは無いのですが、正直うっかり触れて気持ちの良いものではありません。これまで、やれビールに寄って来るとか、専用の薬で等々…いろいろ試しましたがアサヒビールをナメクジにというのはいかにももったいない…ということで数年前から銅線を使った方法を試しています。これが中々良い結果で、鉢回りにいたナメクジは殆ど見かけなくなりました。銅線から溶出した銅イオンをナメクジは嫌がるのでしょう。忌避効果があるといえます。といえば、古い寺や神社は日陰のじめっとしたところでも殆どナメクジは見かけませんね。屋根に使っている銅板から銅イオンが少しずつ溶け出しているからでしょう。安全で手軽、最近は100円均一の店でも取り扱っています。

昔から、盆栽家は鉢底網に銅製を使っていましたが、その目的があるのかも知れません。



★ナメクジ対策ワンポイント★

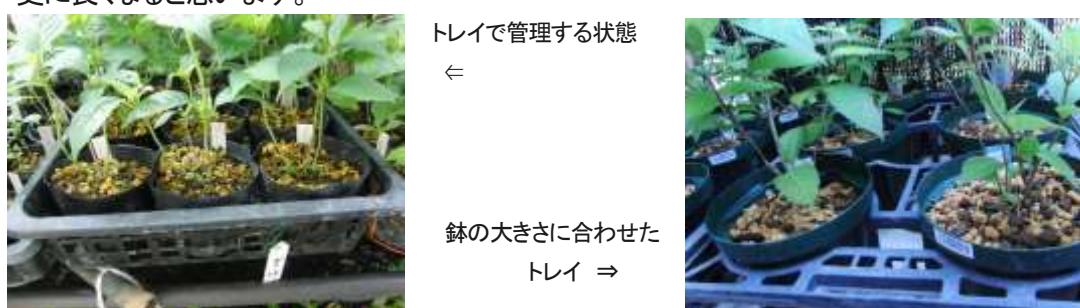
鉢の植え替え時に銅線を鉢底石と一緒に底に入れるだけです。写真のよう銅線を輪の形にして使っています。

また、トレイに鉢を入れて管理する場合も、トレイ籠の周囲を銅線で回しておけばナメクジの侵入を防げるようです。これだと、植え替え時の銅線の回収も必要ありません。

⑤ アジサイの置き場、特にトレイを利用する場合

アジサイを鉢で栽培する場合はよく園芸店やホームセンターで見かけるトレイを使うととても便利です。ヤマアジサイを鉢で管理した場合は5号サイズの鉢で6個は入ります。また、鉢のサイズに合わせてぴったりとめ込める様になったトレイもありますのでこれも持ち運び時に倒れたりすることなく便利です。

さて、ヤマアジサイを鉢で管理する場合、その自生地の状況は殆どが傾斜地の風通しの良い場所で必ずしも肥沃な土壌に生えているわけではありません。ゴロゴロとした石だらけのほとんど土の無い場所でもしっかりと根を張っています。トレイで管理する場合も鉢の風通しはとても大切です。直接地面にトレイを置かずに最低ブロック一段分（約25センチ）出来れば2段分（約50センチ）の高さは必要です。こうすることで、トレイの下側に風が通り、アジサイの鉢の中の通気性が大きく改善されます。今回、第一回のアジサイの栽培に使う鉢について書きましたがスリット型の鉢を使い、トレイの置き場を高くすることで生育環境は更に良くなると思います。



★置き場ワンポイント★

アジサイを鉢で管理する場合、5号鉢が6個入るトレイを準備してブロック2段分程度(約50センチ)の高さにしましょう。この高さにすると腰の高さに近いため一鉢ごとの状態が見やすく管理が楽になり異常も早く見つけることが出来ます。

⑥ 品種名ラベルで注意すること

アジサイといっても自生のアジサイだけでも大きくガクアジサイ、エゾアジサイ、ヤマアジサイと分けられ、更にその品種名まで分けるとヤマアジサイだけでも1,000種類以上の品種があると云われています。現在でも毎年のように一部のマニアの方によって新種が山から発見されているくらいですからアジサイ科の植物を更に細かく調べようとするときが遠くなりそうです。

アジサイに限らず栽培する植物には全て名前がありますので、鉢植え、地植えに限らず品種名の表示は忘れずに行いましょう。

★表示ラベルのワンポイント★

植え替え、挿し芽をした場合は必ずラベルを忘れずにつけましょう。
書く内容は決められていませんが次のことが書かれていれば完璧です。

- ・ 品種名 ⇒これは絶対に記載が必要です。**最低、品種名だけでも記入しましょう。**
- ・ 産地 ⇒どこの県、どの地域で最初に採取されたのか。
- ・ 植え替え日、または挿し芽をした日 ⇒ 次回の植え替えや成長具合確認に役立ちます。
- ・ 他に入手先なども簡単に記載すればよいと思います。

ラベルは鉢に差し込むようになりますが、屋外のためプラスチック樹脂は経時硬化して割れやすくなります。植え替え時に出来るだけ新しいラベルに書き換えるようにしましょう。私は最近念のため鉢には2本のラベルを挿すようにしています。

- ・ラベルに品種名を書くときにはマジック類はしばらくすると消えるので不可。鉛筆のB～2Bあたりで書いて下さい。
- ・出来れば表裏面両方に書いて鉢をどちらから見ても品種名が分かるように…
- ・ある人は土に挿す部分にも品種名を書いていました。こうすると劣化で読めなくなることは無いので引き抜いて確認できるとのことです。なかなか良い方法です。
- ・また、難しい漢字の品種名にはふりがなをふることも必要です。
- ・アジサイを栽培する上で品種名の不明な鉢を管理するのは鉢数が多くなると整理がつきません。また、人に差し上げるときに「例のあれ…」では問題ありますね。展示会の場合は品種名の記入は必要になります。
- ・アジサイに限らず自分が栽培する植物の名前を覚え楽しく管理するために、ラベルに品種名を記入する習慣をつけておきましょう。